

第 213 号 内容紹介

1, ガーナ政府書簡「国連の奴隷貿易非難決議と賠償正義の大儀」

大西洋奴隷貿易と奴隷制を「人類にたいする重大犯罪」と規定する国連総会決議が採択された。グローバルサウス諸国は「謝罪と賠償、是正の取り組み（賠償正義）」を求めて反対する欧米日などに迫っている。

2, 共同書簡「人類の良心への宣言」

トランプ政権による一方的な「力の支配」はもはや座視することができない。アメリカ一極支配に挑むイランの和平案を支持し、正義の立場にたって傲慢な支配を終わらせよう。30カ国 170人の知識人の共同書簡。

3, B・ヴァンコフスカ「イラン和平への中国の取り組み」

ガザとイランをめぐる不当な安保理決議。棄権した中国の外交には、イラン和平の 51 項目提案にみられるように、力の行使がエスカレートするなかで、あくまで外交と多国間主義を守る中核的な価値の反映している。

4, テレスル「ベネズエラ、IMF 凍結資産の回収に成功」

ロドリゲス暫定大統領は、国際通貨基金（IMF）で凍結されていたベネズエラの権利と資産の正当な回復を発表した。新たな債務なしに、インフラや社会福祉プログラムへの即時投資に資金を提供する外交上の成果。

その他の記事は「AALA ニュース編集日記」で参照できます（[aala news の編集日記 \(livedoonar.jp\)](https://aala-news.com/livedoonar.jp)） なお紹介している論考は学習資料であり、内容の全部も一部も日本 AALA の見解や立場を反映したものではありません。

